

# 成田市教育委員会会議議事録

令和2年8月成田市教育委員会会議臨時会

期 日 令和2年8月26日 開会：午後1時30分 閉会：午後1時52分

会 場 成田市役所5階 502会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 勲
委 員	高 木 久美子
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦

出席職員

教育部長	清 水 活 次
教育部参事	田 中 美 季
教育総務課長	松 島 真 弓
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	藤 崎 修 治
教育指導課長	葉 山 憲 一
学校給食センター所長	鈴 木 孝
教育総務課長補佐 (書記)	大 隅 光 夫

傍聴人：0人

## 1. 教育長開会宣言

## 2. 署名委員の指名 高木久美子委員、岡本秀彦委員

### 3. 教育長報告

#### 主催事業等

##### ○大栄みらい学園の新校舎について

現在建設中で令和3年4月に開校予定の「大栄みらい学園」の新校舎について、当初予定の工事期間内に工事の完了が見込めなくなりましたことから、今回、教育委員の皆様にもその状況について詳しくご報告させて頂きたく臨時会としてお集まりをお願いしたものでございます。

詳しいご報告はこの後、担当課から申し上げますが、皆様ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症が拡大を続け、大栄みらい学園の建設作業員が感染する事態となり、保健所の指導もあって、感染拡大を防止するため工事関係全体が一時中断を余儀なくされる事態が発生しました。本工事現場は、これまで、担当課職員と現場担当者との連携を密にしてこれらの問題に対処し、何とか定められた期間内に工事を完了させるべく努力をしてきたところです。しかしながら、今回は新型コロナウイルス感染という、現状では解決が困難な問題が発生したため、一時的に工事全体を中止せざるを得ない状況となってしまいました。また、今後も同様な問題がいつ発生してもおかしくない現状を鑑みますと、当初に予定していた工期で、工事の完了が見込めないことから、この際、新校舎での開校日も併せて延期させて頂き、この延期期間中、「大栄みらい学園」の学校運営をどのように行っていくのかもご説明させて頂きたいと思えます。

新校舎の完成は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な教育活動に制限を受けている子どもたちはもちろんのこと、その保護者の皆様や地域の皆様、そしてこれまで着実に準備を進めてこられた関係各位が心待ちにしていたものであり、非常に残念なご報告で誠に申し訳なく思いますが、今後も最善を尽くし、できる限り早い時期に新校舎を完成させ、子どもたちに一日でも早く笑顔を取り戻させてあげたいと願っているところです。

以上、簡単ですが私からのご報告とさせていただきます。

ご質問等につきましては、この後の報告と合わせてお受けいたします。

### 4. 議 事

#### (1) 報告事項

報告第1号については、成田市育委員会会議規則第20条 第1項の規定より非公開により報告を受ける。

《これより非公開》

## 報告第1号「大栄みらい学園の開校について」

篠塚学校施設課長：

「大栄みらい学園の開校について」のご報告を申し上げます。

大栄みらい学園につきましては、令和3年4月の開校を目標に、令和元年6月26日に建築工事、電気設備工事、機械設備工事の各請負業者との契約を結びまして、翌6月27日から令和3年2月21日までの2か年で新築工事を進めているところでございます。

しかしながら、工事発注時点において想定できなかつた、新型コロナウイルス感染症に伴う4月には「緊急事態宣言の発令」、7月には「建設作業員の感染」により、工事が一時中止となりました。緊急事態宣言下での工事の停止、また、建設作業員につきましては、1名の方、さらに1名の方、これに関連した1名の方、計3名の方が感染をいたしました。このような状況下の中、建設業における新型コロナウイルス感染症の防止対策を図りながら工事の実施によりまして、工事の進捗は7月末時点で46パーセントとなり、予定しておりました58パーセントに比べて12パーセントのマイナスでありました。今後の工程につきまして、このような新型コロナウイルスの感染症の防止対策を図りながら工事をするということについて、受注者とも協議を重ねてまいりましたが、本年度内での工事完成が難しい状況となってまいりました。

今後の工事の予定並びに完成時期につきましては、本年10月末までに建物の躯体工事を行い、その後に内外装工事や設備工事などを進め、3月中には工事自体は終わる見込みであります。引き続き各種設備等の試運転調整や完成検査を行い、令和3年5月に工事完成を予定しております。今後、自然災害や感染症等などによる影響を受けた場合には、さらなる変更が考えられるものでございます。

このことから、大栄みらい学園の開校につきましては、令和3年4月からの当面の間、3月をもって閉校予定の大栄地区の小中学校を活用し、1年生から4年生までは津富浦小学校、5年生から9年生までは大栄中学校の校舎において、施設分離型の義務教育学校として学校教育を開始したいと考えております。施設分離型となりましても、両校舎の連携・連絡が十分に図られ、児童生徒の学習環境が確保できるよう、地元の小中学校の先生方にもご助言をいただきながら4月の開校に向けての対応策を検討しているところでございます。

なお、大栄地区の皆様へのご説明につきましては、まず、小中学校のPTA役員の方々や地元の各種団体の代表者などで構成されております「大栄地区小中一貫教育準備委員会」への説明をさせていただきまして、その後、令和3年度に就学予定のお子さんの保護者の皆様に対し、

書面での通知や、大栄地区の皆様には、区長回覧にてご連絡を行ってまいりたいと考えております。簡単ではございますが、ご説明とさせていただきます。

《報告第1号に対する質疑》

片岡委員：分離型になるということですが、既存の小学校・中学校をそのまま継続することはできなかったのでしょうか。

篠塚学校施設課長：4月から義務教育学校がスタートするという事は、地域的には意思決定されているものと認識しております。義務教育学校としましては、施設一体型・隣接型・分離型という形があるようでございますけれども、分離型が教育環境上、可能だということであれば義務教育学校をスタートさせるべきだということで、教育委員会のなかで話し合い、検討課題を整理しているところです。

清水教育部長：補足させていただきますと、一番大きい問題としては、先生方の配置があるんですけれども、来年4月の配置については、大栄みらい学園が開校するという予定のもと配置されますので、これまでの小学校5校・中学校1校で、それぞれ校長・教頭・担当の先生がいるという配置ではないので、限られた先生のなかでやるには、やはり分離型なりこのような形でないとできないという状況にございますので、ご理解をお願いいたします。

関川教育長：実は前もって来年4月の開校を目途に人事配置の計画を行っております。今ある5小学校のうち3校の校長先生方は定年退職されます。仮に来年もその学校を継続するという事になったら、そこにわずかな期間だけ校長を配置するという事になり、年度途中の校長の異動はもちろんですし、だからといって1年遅らせるのかというのもそれもできない状況ですので、今までの学校を継続させるということは考えられません。すべての準備が4月に新しい学校になるということを想定して進んでいきますので、今それを変えることは難しいです。

片岡委員：子どもたちは、津富浦小と大栄中の2か所に分かれて、新しい校舎が完成したらまた引越すということになり、環境がいろいろ変わることは大丈夫でしょうか。

篠塚学校施設課長：校舎の完成時期がなかなか見通せないところもありますが、来年度のそれほど遅くならない時期に完成し、引越はできると思います。先生方とも話をしながら準備を進めていきたいと考えております。

片岡委員：閉校式は予定通りやるのですか。

松島教育総務課長：3月に閉校いたしまして、4月に義務教育学校を開校するという部分は変更ございませんので、各地区で行います閉校事業等は予定通り進めていただくことで考えております。

清水教育部長：改めて地元の方にもお話ししまして、当初の予定通りでよろしいか確認したうで、対応することになると思います。

佐藤委員：この件に関しては、私自身、3月頃からコロナの影響で少し無理かなと思っていました、大栄中の校舎と大須賀小なり近くの小学校の校舎を使って、とりあえず何とか開校してほしいなと考えていました。分離型とおっしゃっていたのですが、やむを得ず臨時的に措置するということなので、あえて施設分離型と言わずに施設一体型だけれども、こういう措置をとらせてもらうということで理解したほうがいいのかと思います。

工事も無理をしないで少し余裕をもって、1学期の途中で引越するとバタバタするので、1学期はそのままいって2学期から新しい校舎を使うくらいで、ゆっくりと考えてもいいのかなと思います。

高木委員：仮設校舎を建てるなどして、大栄中のほうで全員が一緒に始めることはできないの

でしょうか。

篠塚学校施設課長：現在工事中で敷地の半分近くは工事場所となっております。大栄中学校の敷地にはかなり大きな校舎とグラウンドがあります。そこに仮設校舎を建てるのは現実に厳しいと思います。

高木委員：既存の校舎では入りきらないのですか。

藤崎学務課長：1年生から9年生までで26学級分の教室が必要になります。大栄中の普通教室として使える構造の区画が14教室分しかないため、10教室分が足りなくなります。また、5年生から9年生までを大栄中に入れるにあたって、会議室を通常の学級用に転用の工事をしていただく必要がありますので、大栄中一つに全員を入れることは難しい状況です。

関川教育長：校庭には既にメイングラウンドが出来上がっているのですが、そこに仮設校舎を建てますと、子どもたちの活動制限が大幅にかかってしまって、正常な教育活動を実践することが難しいという問題が生じるのは間違いないのかなと思われま。

片岡委員：津富浦小になった理由は、大須賀小より距離が近いということですか。

篠塚学校施設課長：大栄中学校から見ると距離的にはそれほど変わらないのかなと思います。大須賀小学校は2階建て、津富浦小学校は3階建てというところで、津富浦小学校のほうが教室の数が少し多いので、津富浦小学校であれば1年生から4年生まで入るのかなということで検討しているところです。

関川教育長：加えて児童ホームの問題もあります。津富浦小には今児童ホームがあるんです。もう1か所川上に児童ホームがあるんですけども、川上のほうに行く子どもたちの

分も学校内に確保しなければいけないという課題もありますので、そのようなことから津富浦小が適切かなというところです。

議 長：他にご質問等はありませんか。よろしいですか。

関川教育長：大栄みらい学園は4月に開校です。ただ、開校したわずかな期間は、津富浦小と大栄中に分かれてしまいますが、新しい校舎に入れることは間違いございませんので、それまでの間は、やや負荷がかかりますが、何とか全力で乗り切ってまいりたいというふうに考えているところです。よろしくお願ひ申し上げます。

《非公開を解く》

## 5. 教育長閉会宣言